

7月25日(木)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

今年はオンラインで
元気に発行中!

ほぼ

日刊サマーミュージック ONLINE

Hobo Nikkan Summer Muza

「子ども扱い」しない スケールの大きな演奏



【7/24 11時開演：こどもフェスタ2020 イッツ・ア・ピアノワールド】
毎年恒例、小川典子による「イッツ・ア・ピアノワールド」。4歳から入場可能で、会場には小学校低学年ぐらいの子どもたちの姿が目立つ。例年はステージの上に子どもたちがピアノを取り囲むように座っていたが、今年は座席での鑑賞となった。小川はまず、モーツァルトの《トルコ行進曲付》を弾く前に、今日の演奏は2014年に発見された自筆譜にもとづく新バージョンであることを説明する。子ども相手でも決して「子ども扱い」しないのがいい。続いては《悲愴》。「ベートーヴェンは思ったことを正直に曲に込めました」という言葉どおり、激しい感

情をグルーブに乗せ、一気に駆け抜けるような演奏には、子どもたちも前のめりで聴き入っていた。前半が終わり、質問コーナーでは事前にメールで募集した質問に次々と答えていく。子どもに限らず、すべてのピアノ学習者にとって大切な心構えや、実践的なヒント満載の話は、ぜひ配信でチェックしてみしてほしい。後半の武満、ショパンでも、響きの違いを浮き彫りにしながらスケールの大きな演奏を繰り広げる。「コンサートホールでしか聴けない音」を子どもたちはしっかりと体験しただろう。アンコールのリスト《ラ・カンパネラ》まで、あっという間の濃密な1時間だった。(音楽ライター/編集者 原典子)

【7/24 15時開演：ヒロコ&ノリコの楽しい2台ピアノ】

川崎の生田中学で先輩後輩だったという国府弘子さんと小川典子さんのデュオが、ミュージックの舞台上で実現した。

各人のソロによる自己紹介で幕開けしたコンサート。2台ピアノの1曲目は、本邦初公開となる国府さんの「REBORN」。昨年11月、国府さんがミュージックでの本番直前に倒れた出来事があったが、パワフルできらめく演奏から、その時ぶりのミュージックの舞台上に寄せる想いが感じられた。続くモーツァルトのピアノ協奏曲第21番2楽章では、エレガントな調べとジャズの揺れる旋律が重なる味わい深さに魅了される。「トルコ行進曲」は、クラシックとジャズの表現が交互に繰り出される最高にエキサイティングな展開。クラシックファンは、見たことのない小川さんを目にしたのではないだろうか。

そして、ガーシュウィン「ラプソディ・イン・ブルー」。「オーケストラ版を聴き慣れた方には新しいと思う」との予告通り、新鮮

ジャンルの垣根を超えた エキサイティングな展開!!



なハーモニーとフレーズが飛び出す。奔放な音を打ち出す国府さんに、小川さんもキレのいいタッチで応戦。追いかけるのはトムとジェリーか、二頭の女豹か。ライブならではの音楽がヒートアップしていった。

アンコールはサティ「風変わりな美女」より「大社交界のカンカン」ははじけるような音楽でフィナーレを迎えると、会場は大きな拍手に包まれた。

(音楽ライター・高坂はる香)

今年のサマーミュージックは生音+生配信!



ホール座席券・オンラインチケットはこちらから

アーカイブ配信は8/31日まで視聴できます

#サマーミュージックで投稿してください!
Twitter: @summer_muza
Facebook: @kawasaki.sym.hall
Instagram: @muzakawasaki

※「エンジョイ!川崎!!パートナーショップのご紹介」は本日休載いたします。ご了承ください。

来場者の声

【イッツ・ア・ピアノワールド】
(ライブ配信中チャットより)

◆私が子供のときにこういう企画があったら楽しかったと思います。子供さんたち幸せですね! ◆ベートーヴェンの想いが伝わり、ベートーヴェンに会えた気がしました。◆楽しかった。ありがとうございました。ピアノを続けることの意味を改めて再認識しました。◆5歳プラスウン10歳ですが、とても勉強になりましたし、楽しかったです!

【ヒロコ&ノリコの楽しい2台ピアノ】
(ライブ配信中チャットより)

◆弘子さん、元気になられて本当に良かった! ◆舞台袖が見られるのもわくわくしますね! ◆素晴らしい演奏、そして楽しい時間をありがとうございました。(アンケートより)

◆ピアノってすごい! 2人の名手による、変幻自在のピアノパーティーでした。(自営業・globe) ◆配信で拝見、拝聴しましたが、とても楽しかったです! ジャズとクラシックの融合、素晴らしかったです。特にラプソディ・イン・ブルーにガツンとやられました。感涙でした。(医療関係・naonao)